眼科入院患者への薬剤管理指導業務の実態と改善

薬剤部 近藤素代

Ⅰ．緒　言

近年，白内障，緑内障，網膜剝離など手術により視力回復が図られるようになり，患者が増加している．手術後も点眼による薬物治療が継続されるため，入院中の患者や家族に対する点眼薬の服薬指導は重要となっている．

現在，当院薬剤部では，眼科で入院中の患者全員を対象として薬剤管理指導業務を行っている．

入院患者には高齢者が多いため，指導内容を正確に理解してもらう工夫が必要となってきた．また，疾患により在院日数が異なり，白内障など在院期間の短い疾患では指導時間の設定が難しい状況である．そこで，今回眼科患者への薬剤管理指導業務について検討，改善したので報告する．

Ⅱ．対象と方法

状況把握を行うため，2002年4月1日～2003年3月31日の期間に当院眼科へ入院治療し薬剤管理指導を実施した男性110名，女性128名の計238名の患者を対象として主な疾患，年代，曜日別指導人数，在院日数等の分析を行った．

Ⅲ．結果・考察

1．眼科入院患者の疾患別，年代別割合と在院日数

・年間の疾患別指導割合

疾患による内訳では，白内障72.4%，網膜剝離7.5%，緑内障5.2%，糖尿病網膜症3.7%であった．

・患者の年代別指導割合

年代別による内訳では，70歳台40.3%と一番多く，60歳台以上で全体の約80%を占めていた．

・平均在院日数

全ての疾患を合わせた平均在院日数は，8.4日であり，白内障患者の51.0%を占める片眼手術では4.6日，両眼白内障8.8日，網膜剝離14.2日，緑内障12.1日，糖尿病網膜症19.4日であった．

これらのことから，白内障の患者が多く，比較的高齢であること，疾患により在院日数に差があることが明確となった．入院の大半を占める片眼手術の白内障では多疾患に比べ短く，指導可能な時間も限られていた．

2．眼科入院患者への薬剤指導管理業務の内容

・服薬指導の内容と患者用パンフレット

説明はパンフレットを用いて行っている．全患者共通の指導用パンフレットとして写真入り薬剤情報と点眼時の注意を記載したものを作成し利用した．

・曜日別の指導件数

当院眼科では火，木曜日に手術日が設定され，服薬指導は手術翌日の水曜日，金曜日に集中して行われていた．

Ⅳ．改　善　点

1．パンフレットの改定

患者側の要望を参考に，フォントの変更と写真や活字の拡大をし，内容は平易な言葉で簡潔にまとめるようにした．点眼薬を複数併用する場合には，点眼時間と点眼薬名を記載した表を作成し，退院後も活用できるように工夫した．糖尿病性網膜症の場合は，持参薬の薬剤情報と血糖降下剤の一般的注意事項をまとめたパンフレットを作成し説明した．

2．記録業務の効率化

次の点を工夫し時間の効率化を図った．

・指導記録をチェックリスト方式へ変更

・患者プロフィール記入用紙，白内障用プロブレムリストの作成

3．依頼箋に患者理解度と家族来院予定記入欄設定

患者の理解度に関して事前に情報を得ることで，家族への服薬指導の時間設定がスムーズになった．家族来院予定は病棟と協力して調整している．

Ⅴ．今後の課題

1．持参薬についての指導の充実

2．術前，術中投薬説明

3．医師・看護師との指導内容の共通化

4．病棟でのクリニカルパス作成への参加

表1　白内障患者に対する指導業務の流れ

	月	火	水	木	金	土
患者	入院	手術	点眼開始	退院		
薬剤師		指導依頼	患者プロフィール作成/服薬指導/指導記録作成			
患者			入院	手術	点眼開始	退院
薬剤師				指導依頼	患者プロフィール作成/服薬指導/指導記録作成	

表2　薬剤管理指導記録抜粋

Problem	Plan	指導記録
#1 持参薬の管理	P1 入院中の服薬 ・治療(手術)への影響が考えられるものに対して中止の検討 ・持参薬の効果・副作用・使用状況の確認	服薬状況プロフィール参照 Dr 指示　あり　無
#2 術前術後の投薬説明	P2 説明書にて内服薬、注射薬の説明を行う	※ｽﾙﾍﾟﾗｿﾞﾝ投与後 1 週間は禁酒
#3 手術後の薬学的管理 #3-1 点眼薬の知識不足によるﾉﾝｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ	P3-1 患者の混乱を招かぬよう写真付説明書を作成し簡潔な説明	◎点眼手技・退院指導説明書利用